

授業改善

【本校が3年間で目指した授業】

自分の考えを表現して深め、学びを自覚できる授業

このような取組が効果的だった！

《取組1》「牟田山流学習の極意」を柱とした全校生徒、全教員共通の取組

○ 「個1→小集団→個2→振り返り」という流れの中で、生徒がどのような考えをもつのか、交流することでどのように変化するのか、どのようにまとめるのかを明確にした授業づくりを行った。

（成果）

- 一単位時間の授業の中で、ねらいが明確な授業づくりが日常化され、生徒も教員も一緒に授業をつくるという意識が高まった。
- 生徒の授業評価(4段階評定H29→R1)「話し合い、発表の場面設定がある」3.08→3.14、「わかった・できたと感じる」3.23→3.25

《取組2》授業研究会のPDCAの確立

○ 授業研究会に関して、事前の指導案検討、司会者打合せ、「牟田山流学習の極意」と合わせた整理会のシート、自評シートなどを活用し、授業をつくる視点、授業を見る視点を焦点化した。さらに、授業研究会の振り返りまでを含めたPDCAを確立した。

（成果）

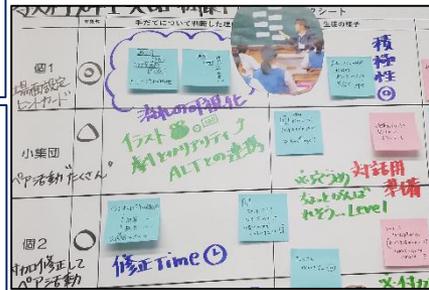
- 視点が焦点化されたことで、グループ内協議において、他教科に対しても課題に対する改善点等が出され、授業研究会が大変活発になった。また、協議会を通して各教科で取り組む内容がさらに具体化されていった。



【牟田山流学習の極意】 【自評シートの項目】

自評シート

- 1 主眼
- 2 指導後の生徒の姿
- 3 個1に対する手だて
- 4 小集団に対する手だて
- 5 個2の手だて
- 6 振り返りの手だて
- 7 達成度
- 8 改善点 等



【授業整理会で作成したシートの一部】

- ① 研究部事前打合せ
- ② 指導案事前検討 (授業者と研修部)
- ③ 役割分担
- ④ 司会者打合せ
- ⑤ 授業研究会
- ⑥ 授業整理会
- ⑦ 成果物の共有
- ⑧ 研修の振り返り
- ⑨ 教務便り

【授業研究会のPDCA】

【考察】質的向上につながった本校の授業改善について

- 教員も生徒も「牟田山流学習の極意」を柱として授業づくりを行うことで、他者の意見を取り入れたり参考にしたしたりして、自分の考えを深めたり広げたりする学習活動を日常化することができた。
- 授業研究のPDCAサイクル(事前の指導案検討、役割分担、司会者打合せ、授業整理会、振り返り、振り返りの共有)が確立されたことで、教科を超えて、教員間で意見交流が活発になり、自教科の取組もより具体化されるようになった。

マネジメント

【本校が3年間で確立したマネジメント】

全教員で行う学力分析と、焦点化した取組

このような取組が効果的だった！

《取組1》授業評価の見直しと活用

○ 生徒による授業評価は全教科4つの項目とし、3つは共通、1つは教科独自の項目とした。また、その結果を分析し、その分析から今後の授業づくりのポイントについて教科部会等で意見を出し合った。

（成果）

- 生徒の授業評価が確実に教員の授業づくりにまでつながり、校内研修会がさらに活発になった。

《取組2》全教員で行う生徒の学力の実態分析

○ 全教員で短時間に生徒の実態分析が行えるよう、全国学力・学習状況調査の自校採点用資料を教務担当が作成し、研修部でグルーピング、進捗を考え、採点、生徒の実態分析を行った。この分析を学力向上プランの見直しに反映した。

（成果）

- 全教員で学力の実態分析を行うことで、課題が共有化され、そこから各教科、各学年で取り組むべきことを明確にすることができた。
- 「校内研修が全教員で組織的にできている」3.15

《取組3》牟田山ノートの取組

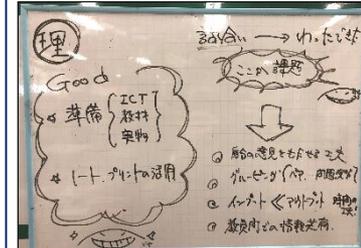
○ 教員と生徒にアンケートを実施し、アイデアを取り入れながら、毎年書式や活用法を更新し、授業と家庭学習をつなぐ取組を行った。

（成果）

- 提出が徹底され、家庭学習の時間は確実に伸びている。
- 3時間以上の生徒(3年生)24%。(全国9.9%)

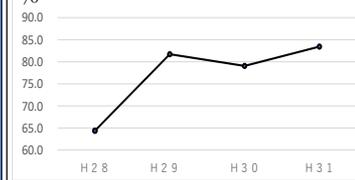
数学：自分の考えを筋道立てて説明できるようになりましたか。
理科：友達と交流することで、根拠をもとにした説明やまとめができるようになりましたか。
英語：学習した英語を使って授業の中で自分のことや身のまわりのことを話したり書いたりすることができましたか。

【授業評価 教科独自の項目例】



【授業評価分析後の教科部会成果物】

％ 家庭で1時間以上勉強する生徒の割合(3年)



【家庭学習1時間以上の生徒数の推移】

【考察】効果につながった本校のマネジメントについて

- 授業評価の項目を見直すことで、教科で重点的に取り組むことが明確になった。さらに、授業評価の結果分析を全教員で行うことで、共通した課題が見え、教科としての今後の取組の見直しにもつながった。さらに、この研修を重ねることで他教科の取組も考えることから、カリキュラム・マネジメントにもつながった。
- 全教員で自校採点等の実態把握を行うことで、課題が共有化され、一部の教科だけでなく、全教科や各学年で取り組むべきことが明確になった。